

平成21年度 伯耆町一般会計決算

伯耆町監査委員による「決算審査意見」

〈要旨〉

関係諸帳簿、証拠書類を照合し厳正に審査を行った。

計数はいずれも符合して正確であり、出納経理も適確に処理されており、適正な決算であることを認めた。

各財政指標は、経常収支比率が85.3%（前年度92.6%）、実質公債比率（3ヶ年平均）が18.1%（前年度20.1%）、将来負担比率が73.6%（前年度85.4%）となっている。このうち、財政構造の弾力性を示す経常収支比率が7.3ポイント下がっている。この主な要因は起債償還のピークが過ぎたことによるもの、普通交付税の増加等であるが、引き続き職員給与のカットなどによる人件費抑制に取組まれた結果であり、前年度に引き続き財政の健全化に全職員が一丸となって努力されたことがうかがえる。また自治体の財政健全度を示す実質公債費比率が2.0ポイント下がっているが、依然として危険ラインの18%を超えているため起債の借入れには許可が必要となっているものの、単年度数値としては、15.1%と目標を達成している。

平成21年度一般会計歳入総額は前年度対比0.7%減の7,536,221,554円、歳出総額は前年度対比4.7%減の6,955,736,014円で、歳入歳出差引額580,485,540円を翌年度に繰越している。

繰越額580,485,540円には予算執行上の正当な手続きを踏んで措置された繰越事業の財源231,571,000円が含まれているため、**実質の繰越額**は、348,914,540円である。

平成20年度実質繰越額231,476,399円を差し引くと、**単年度収支**は117,438,141円の黒字である。**財政調整基金**として1,560,000円を積立て、また**起債の繰上償還**として4,665,857円を執行しているので、**実質単年度収支**は123,663,998円の黒字となっている。

伯耆町議会決算審査特別委員会

次の17項目の決算意見を附して、平成21年度一般会計ほか、全会計の決算を認定！

1. 町税等の口座振替制度の啓蒙普及を図り、加入を推進されたい。
2. 町税等の支払いについては、指定金融機関で支払ってもらうよう、お願いされたい。
3. 職員の給与水準について、他市町村との権衡を図られたい。
4. 分庁舎での総合的な相談体制を整備されたい。
5. ゴミステーション化については、今後も継続し推進されたい。
6. 情報収集を図り、積極的な企業誘致の促進を図られたい。
7. 産業ネットワーク形成事業をはじめ、各種事業を支援されたことは高く評価する。今後、観光振興を含んだ事業効果を検討されたい。
8. 堆肥センターの施設能力が十分活用されるように、今後、取り組みをされたい。
9. 保育士、保健師等の専門職の人員確保に努められたい。また、職員は、時代に対応した資質の向上を図られたい。
10. 町民を対象とするガン検診は、他保険の受診希望者を把握できるような方法に改善されたい。
11. 国保加入者の人間ドックの受診率の向上に努められたい。また、5年に1度、任意に選択受診ができる方法を考えられたい。
12. 社会福祉協議会への補助金使途について精査されたい。
13. 学童保育の職員確保と処遇改善に努められたい。
14. 植田正治写真美術館所蔵の作品資産価値を明確にされたい。
15. 今後、町営住宅管理会計は収支を明確にされたい。
16. 住宅新築資金の滞納については、28年度までの年次計画を早急にたて、計画に基づいて処理されたい。
17. 文化財ガイドマップの修正を速やかに行われたい。